

その人らしく生きるということ

ブランコをこぐことでスマートフォンが充電できる「発電ブランコ」を知っていますか。このブランコは、令和元年オランダのユトレヒトで開催された環境に配慮した持続可能な社会を考えるイベントで設置され、多くの人々が体験したようです。この発電ブランコは、その後日本に輸入され、現在は西脇市にある放課後等サービス「こはくのひろば」に設置されています。どういった経緯でやって来たのでしょうか。昨年11月の市人権教育研究大会の事例発表をご紹介します。

「こはくのひろば」に通う重症心身障害児のある方は、体を揺らす感覚が好きで、一日中ブランコをこぎ続けることができます。一方、手先を使った作業への関心は薄く、じっとしていることが得意ではありません。将来について「こはくのひろば」スタッフが保護者を交えて話をする中で、「この子にしかできないこと



があるはず」「得意のブランコをこぐことを仕事にできないか」と考えるようになりました。そんなとき、発電ブランコの存在を知ったスタッフが、当時発電ブランコを所有していた企業に連絡し、自分たちの思いを伝え、発電ブランコを寄付していただきました。

障害のある人もない人も、互いにその人らしさを認め合いながら共に生きていける社会の実現を目指していますが、実際には障害のある人が日常生活などで直面する障壁はまだ多いです。そのような中、人と違うことを強みとして捉え、その人の「よさ」や「らしさ」が発揮できるような支援をしていきたいものです。

※令和3年に障害者差別解消法(通称)が改正され、令和6年4月1日からは事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されます。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

楠丘遺跡(黒田庄町岡)

▼問合せ 郷土資料館(☎23 5992)

楠丘遺跡は楠丘小学校の建て替え工事に先立ち発掘された遺跡です。平成4(1992)年の調査で、古墳時代中期(5世紀)の竪穴建物や鎌倉時代の掘立柱建物跡などが見つかりました。その他に、縄文時代早期(紀元前8千5千年ごろ)の縄文土器片が出土しています。これは押形文土器と呼ばれる木の棒に刻み目を入れて文様を付けたものです。

また、同遺跡では直径1・2メートル、深さ約20センチの浅く掘りくぼめた穴の中に、拳大の焼けた石が詰まった遺構が見つかっています。これは焼いた石の余熱で肉などを蒸し焼きにする調理施設と考えられています。これらは市内では数少ない縄文人の痕跡です。



竪穴建物跡(古墳時代中期)



焼礫集積土坑(縄文時代早期の蒸し焼きにする調理施設)



みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

誰もが気軽に参加できる“よりあう”場を

市民提案型まちづくり事業採択団体の紹介

「縁りあう」は、健康運動やものづくりなどの活動を通して、市民の健康増進や多世代交流の促進を目指しています。

今年は市内各地で体操教室や運動指導を実施したほか、リハビリテーションなどに関する悩み相談にも対応しました。活動を通して運動の目標を話すなど、活発な交流の場となっています。



今後は今まで以上に他団体と協力し、子どもから高齢者まで、穏やかに生き生きと暮らせる魅力的な地域づくりを目指そうと活動しています。

▶問合せ よりあう(☎080-5354-5998/✉yoriau2020@gmail.com)



西脇の自然 599

オナガガモ

かも科



オナガは「尾長」で、オスの尾羽のうち中央の2枚が長く目立ちます。茶色の頭部に首から後頭部にかけて白い切れ込みが見られるのもオスの特徴です。メスは全体的に茶褐色でこれといった特徴はありませんが、オスと一緒に行動することが多く、だいたいそばにいます。尾が長いせいか、カルガモなどより細く見え、おしゃれな感じがします。

繁殖地はユーラシア大陸北部のツンドラ地帯で、他のカモ類のように10月ごろ日本に越冬のため飛来します。その頃はオスも地味な姿ですが、12月ごろには繁殖羽に変化し、メスとつがいになり、3月ごろには繁殖地に向けて飛び去ります。カモたちが安心して過ごせる環境を残しておきたいものですね。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】

市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー



西脇市長 片山 象三

2024年の幕開けとともに襲った「衝撃」!

1月1日、穏やかな元日の夕刻に能登半島で最大震度7の大地震が発生しました。翌日には、被災地に支援物資を運ぼうとしていた航空機と旅客機が空港の滑走路で衝突炎上。年始からすさまじい映像を目の当たりにし、心を痛めております。被災された皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、震災でお亡くなりになられた方、そして海上保安庁の5名の方のご冥福を心からお祈り申し上げます。



現地での活動を終え、西脇病院に帰着したDMATのメンバー

能登半島では、現在もたくさんの方が避難所生活を余儀なくされていて、日を追うごとに支援者や支援物資は増えていますが、同様にさまざまな課題も増えています。震災だけがをされた方、また、厳しい寒さの中で避難生活を送る方の体調のことも大きな課題です。西脇病院からはDMAT(災害派遣医療チーム)やJMAT(日本医師会災害医療チーム)を被災地に派遣市では、ふるさと納税の代理受け付けや義援金の受け付けを開始。市内の企業や市民の皆さまからも多くのご寄付をいただいております。温かいお気持ちに感謝申し上げます。南海トラフ地震などの大地震に備え、日本中の自治体は常々災害に対する備えを確認していると思いますが、発生時期や範囲により課題は異なります。今出てきている課題を見ながら、西脇市でも災害への備えを改めて確認していきたいと考えています。